

米国政治を考える上で（南北戦争）

・ 今年のスーパーボールは、ボストン在籍のパトリオットが劇的な 48 ヤードキックで優勝した。直接それが引き金になったわけではないが、米国独立戦争をテーマにしたパトリオットというビデオを見た。メル・ギブソンの主人公が始めは戦争に反対しているものの、息子たちをはじめとして家族そして自分が否応無しに戦争に巻き込まれてゆく宿命を植民地側から描いたものでまああの作で有ったが、見終わった後、思うところあって事務所近くの DC 一大きい書店に關係書物を探しに行った。ところが米国關係戦史、歴史物コーナーで圧倒的に多いのは南北戦争關係であり、探していた独立戦争物は極めて少ない。そればかりでなくその他第 2 次大戦、ベトナム戦争物も然りである。

・ 土日には DC から車で 1 時間くらいの地方都市に良く出かける。フレデリクスバーグ、ミドルタウン、リーズバーグ等大体がモールを中心とした新規開発地区と旧街区とに分かれており、旧中心地は街道沿いにアンティーク屋とか絵画屋など中心に整然とした町並みになっていて、半日ぶらぶら時間を過ごすのにもってこいである。先日もシェナンドーの入り口に当たるウインチェスターを訪れたが、旧街区の中心地市役所の前に若い南軍の戦士の像が立っており、「尊い命をささげた若者たちに敬意を表する」と記して有った。この近辺どの町にも中心地にこうした記念碑がある。

・ このように、今でもここ DC での生活と南北戦争とのかかわりは深い。ちなみに南北戦争における死者は 5 年間で何と合計 6 3 万 3 0 0 0 人でこの数は独立戦争から第二次大戦までの米国が係わった他のすべての戦争の死者を合計したものより多い。独立戦争にあってはたかだか 7,000 人、第 2 次大戦でも 4 1 万弱である。当時の米国の人口約 3,100 万人に対するこの死者の数は驚異的である。この犠牲は今でも米国民一人一人の心の奥に深く認識されている。

・ これだけの多大な犠牲を払った南北戦争の意味するところは色々言われており、代表的なものは以降統一国家として、奴隷制度などの支障がなくなり、資本主義経済の大々の発展を見たという経済的なものだが、寧ろ現在では政治的な意味のほうが圧倒的に大きい。これ以降連邦は州の権限に対してどれだけ介入できるのか、いかなる場合にその権能を制限できるのか常にぎりぎりの議論をしなければならない。この犠牲の尊さを認識すればするほど、為政者は連邦と州政府のパワーオブバランスを常に念頭に置かなければならない。現在の米国政治はこの観点抜きでは到底理解し得ない。（2002年2月）